

シンポジウム6

外傷性脆弱性骨折治療の救急最前線と骨粗鬆症

日時	2026年9月11日(金) 15:15～16:45
会場	第2会場（2F メインホールA）
座長	本間 康弘（筑波大学 整形外科）
単位	脇 貴洋（明石医療センター 整形外科） 日本骨粗鬆症学会：認定医教育研修単位

セッション概要

離島、地方中核都市、大学病院外傷センター、四肢再建施設、二次救急という異なる医療環境から、高齢者の外傷性脆弱性骨折に対する急性期対応と早期手術体制、軟部組織管理、骨粗鬆症治療・二次性骨折予防への接続を横断的に論じる。

演題プログラム

1-SY6-1	超高齢離島地域佐渡における外傷性脆弱性骨折治療と骨粗鬆症 高橋 勇樹（長岡赤十字病院 整形外科） 佐渡での5年間の脆弱性骨折発生状況と手術待機時間・在院日数、大腿骨FLS導入後の骨粗鬆症治療開始率と継続率の改善を示す。
1-SY6-2	地方中核都市の外傷救急 吉田 暁（新潟市民病院 救急科） 三次救急に搬送される高齢脆弱性骨折患者の内因性疾患や抗凝固薬併用などの特徴と、救急と骨粗鬆症診療の連携課題を考察する。
1-SY6-3	都内大学病院外傷センターの現状：ふらふらコホートから 乾 貴博（帝京大学医学部 整形外科科学講座） 整形外科臨時枠と循環器連携による手術待機短縮の成果と、前向き観察研究「ふらふらコホート」によるFLS・研究・教育の統合運用を示す。
1-SY6-4	四肢再建型外傷センターにおける高齢者治療のリアル 二村 謙太郎（湘南鎌倉総合病院 外傷センター） 高齢者四肢外傷の最大の障壁を軟部組織の低耐術能と位置づけ、down grade osteosynthesisで固定性と軟部保護を両立する戦略を論じる。
1-SY6-5	救急搬送から骨粗鬆症治療へ-二次救急病院における脆弱性骨折診療の役割と展望- 青木 良記（聖霊病院 整形外科） 大腿骨近位部骨折ホットラインによる搬送1655例の実績から、二次救急病院が担う脆弱性骨折の急性期診療と治療導入の役割を示す。